

群 教 セ	G12 - 01
	平 20.240 集

自己自身への気付きを深める生活科指導の工夫

— 「気付きマップ」を活用した 伝え合う活動や振り返る活動を通して —

長期研修Ⅱ 研修員 加藤 靖和

《研究の概要》

児童が意欲と自信をもって活動することができるようになるためには、自分のよさや成長など自分自身への気付きを深めることが重要である。本研究では、対象への気付き、思いや願い、友達からのメッセージ、写真などを掲示できる「気付きマップ」を活用した伝え合う活動や振り返る活動を取り入れることにより、児童が自分自身への気付きを深める生活科指導の改善を図った。

キーワード 【生活科 自分自身への気付き 気付きマップ 伝え合う 振り返る よさや成長】

I 主題設定の理由

中央教育審議会答申（平成 20 年 1 月）において、「…言語に関する能力の重視や体験活動の充実により、他者、社会、自然、環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信をもたせる必要がある」との提言がなされた。そして、新小学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）において、生活科の学年の目標に「身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようになる」が加えられた。生活科はこれまででも自分自身への気付きを大切にしてきたが、今回の改訂で自分自身についての理解などを深めることができた。

この背景には、PISA 調査や内閣府の調査などで、児童生徒の「自分への自信の欠如」が課題として指摘されたことや、国立教育政策研究所教育課程研究センターによる指定校調査で、生活科の「身近な環境や自分についての気付き」における実現状況として、「…自分にもできることがあることに自信をもつ」「…世話をやり遂げた自分がんばかりを感じている」のような自分自身への気付きに関する報告が少ないことが今後の課題であると指摘されたことなどが挙げられる。

このような課題は実際の生活科の授業においても、「自信がなく、教師に細かいことを確認しないと次の活動に移れない」「教師の指示を待って行動することが多い」「できないとすぐ人に頼む」などの様子から見受けられた。

これらの原因としては、

- 教師が必要以上に学習材を与えたり対象とのかかわり方を指示したりしてしまい、児童が自

発的に活動する中で自分のよさに気付く機会が少なかったこと。

- 振り返る活動が単元の終わりに行われることが多く、活動する中でお互いのよさや工夫を伝え合い、認め合う機会が少なかったこと。
- 直接、自分自身への気付きを深める学習として内容(8)があり、他の内容で自分自身への気付きを深めようとする教師の意識や働きかけが弱かったこと。

などが挙げられる。その結果として児童は自分自身への気付きを深めることができなく、自信をもって活動することができないのではないかと考えた。

そこで、自分と友達の気付きを比べたり、自分の気付きに対して友達から意見や感想をもらったりすることにより、それまで気付かなかった自分のよさに目が向く伝え合う活動を行う。気付きや活動の道筋を手掛かりに、自分の成長を実感できる振り返る活動を行う。このことにより、児童が自分のよさや成長など自分自身への気付きを深め、意欲や自信をもって活動できるようになると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

対象への気付き、思いや願い、友達からのメッセージなどを掲示できる「気付きマップ」を活用して伝え合う活動や振り返る活動を行えば、児童が自分自身への気付きを深められることを、授業実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

学習過程を「出会う」「かかわり合う」「振り返る」の三過程で構成する。

- 「出会う」過程で、様々な気付きをまとめたり比べたりした「気付きマップ」を活用し、活動してよかつたことを伝え合えば、児童は自分の興味・関心に気付くことができるであろう。
- 「かかわり合う」過程で、気付きや意見、感想などを交換した「気付きマップ」を活用し、取組のよさや工夫などを伝え合えば、児童は自分のよさに気付くことができるであろう。
- 「振り返る」過程で、それまでの気付きや活動の道筋が表された「気付きマップ」を手掛かりに、できるようになったことや、がんばれるようになったことなどを振り返れば、児童は自分の成長に気付くことができるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 基本的な考え方

本研究の構想は図1の通りである。

「気付きマップ」を活用した伝え合う活動や振り返る活動を取り入れ、「出会う」過程で自分の興味・関心をもっていること、「かかわり合う」過程で自分の得意としていることや工夫していることなど、自分のよさに目が向けられるようする。さらに、「振り返る」過程で以前より成長した自分に気付くことができるようとする。

このような「自分自身への気付きを深める」学習活動を、生活科の他の単元においても繰り返し行うことにより、児童は自分のよさや成長を実感するようになる。そして、「自分のよさをもっと生かしたい」「自分をもっと伸ばしたい」という思いや願いをもつことで、意欲と自信をもって活動することができる児童の育成につながると考えた。

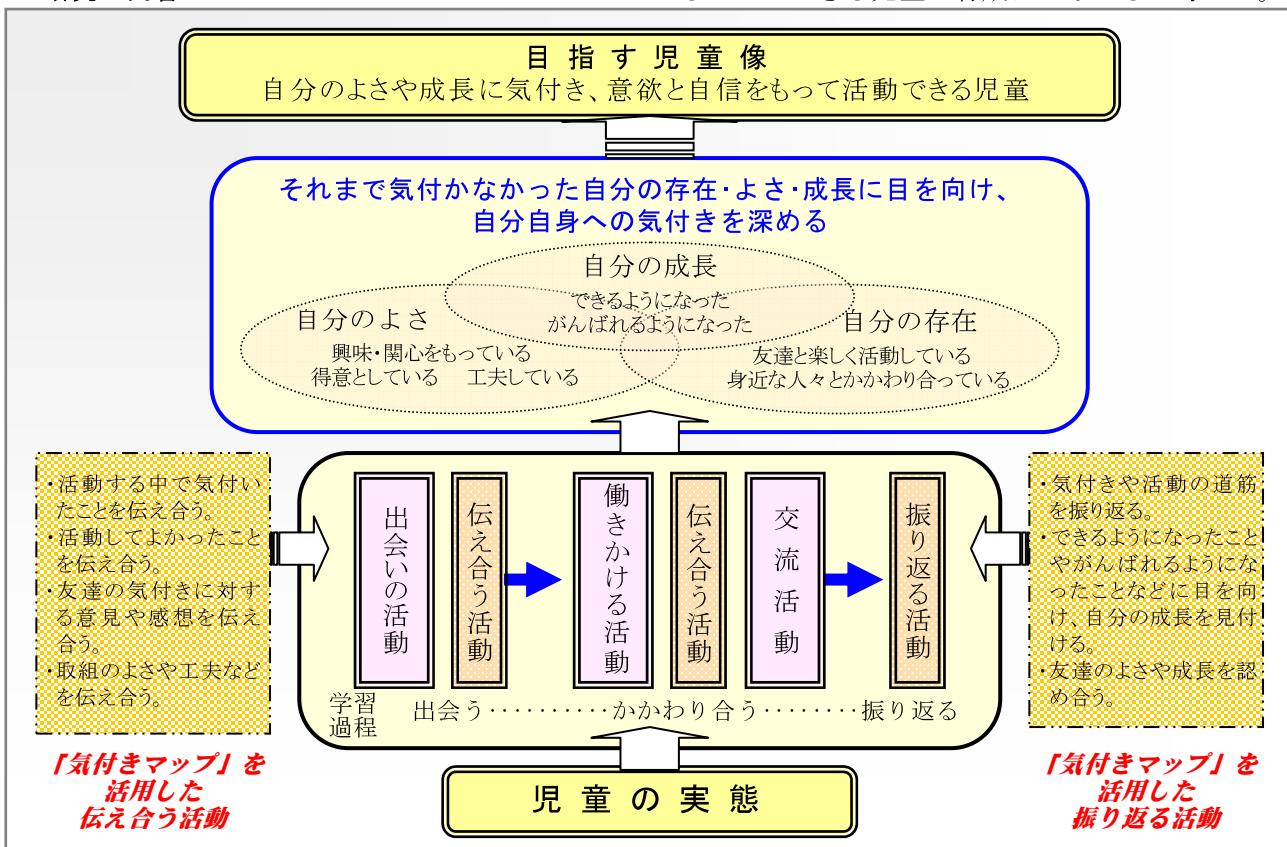


図1 研究の構想図

(2) 「自分自身への気付きを深める」について

小学校学習指導要領解説生活編や先行研究によると、生活科における気付きには「対象への気付き」と「自分自身への気付き」がある。そして、中央教育審議会生活科・総合的な学習の時間専門部会の意見では、児童が意欲や自信をもって生活できるようにするために、働きかける対象への気付きだけではなく、自分自身への気付きへと気付きの質を高める必要があると指摘されている。

○ 対象への気付きとは

身近な環境とのかかわりを通して生まれる、人・社会・自然などへの気付き。

○ 自分自身への気付きとは

対象と自分とのかかわりを深め、対象に気付くことで映し出される自分への気付き。小学校学習指導要領解説生活編では、小学校低学年の児童における自分自身への気付きとして、「集団生活にじみ、集団における自分の存在に気付くこと」「自

分のよさや得意としていること、また、興味・関心をもっていることなどに気付くこと」「自分の心身の成長に気付くこと」が例示されている。

本研究では、「自分自身への気付きを深める」とを、「それまで気付かなかった自分の存在・よさ・成長に目を向け、自分自身についての理解を深める」とことと捉えた。

(3) 「気付きマップを活用した伝え合う活動や振り返る活動」について

① 「気付きマップ」とは

対象への気付き、思いや願い、友達からのメッセージ、写真などを掲示することで、自分や友達のよさを伝え合えるようにしたもの。「気付きマップ①」は出会いの活動で、「気付きマップ②」は働きかける活動で、「気付きマップ③」は交流活動で活用する。また、振り返る活動で、気付きや活動の道筋を振り返る手掛かりとして活用することで、自分の成長を実感できるようにする。(図2)

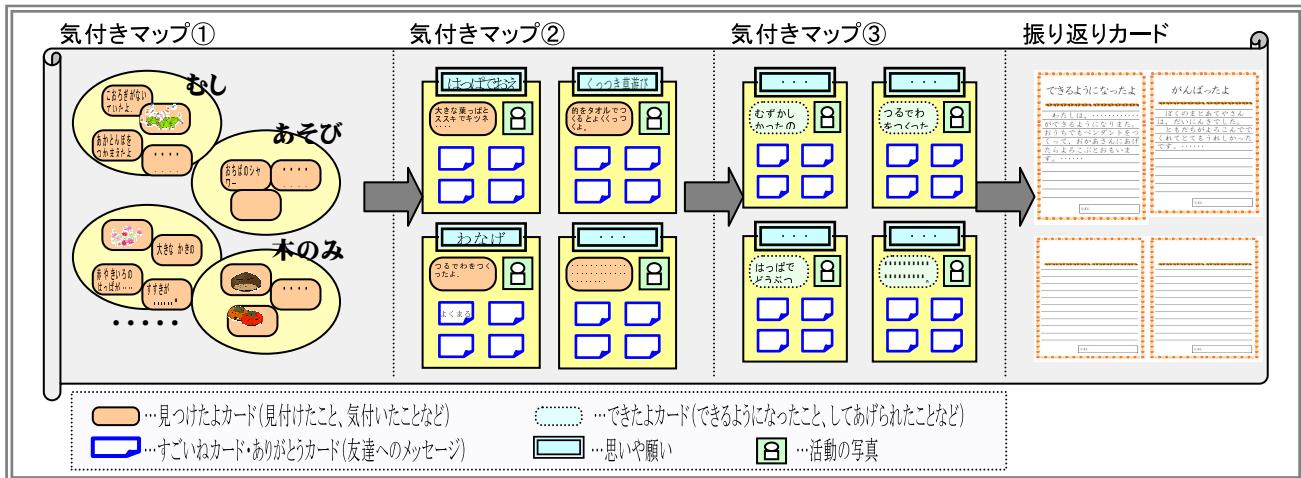


図2 「気付きマップ」イメージ図

② 「気付きマップ」を活用するよさ

児童にとって活用するよさを次のように考える。

- 具体的な活動や体験の途中でも、自覚した気付きを表現して伝えることができる。
- 友達の気付きと自分の気付きを比較したり関連づけたりして、自分の活動に生かすことができる。
- 自分の気付きに対する意見や感想などのメッセージを友達に書いてもらうことで、自分のよさに目を向けることができる。
- 友達へのメッセージを書くことで、様々なよさがあることに気付くことができる。
- 気付きや活動の道筋を常時掲示することで、それを手掛かりに、できるようになった自分やがんばれるようになった自分を振り返ることができる。

教師にとって活用するよさを次のように考える。

- 児童の気付きを把握することができる。
- 共感や励まし、意欲付けなどのメッセージを一人一人に送ることができる。
- 文でうまく伝えられない児童に代わって、気付きを代弁することができる。
- 一人一人の活動やかかわりのよさ、小さな気付きを見つめていこうとする意識が高まる。

(3) 「気付きマップを活用した伝え合う活動や振り返る活動」の概要

これまでの振り返る活動は、単元の終わりに楽しかったことや思ったことをカードにまとめ、発表したり掲示したりするなど、お互いのよさや工

夫を伝え合い認め合う活動になっていないことが多かった。

しかし、意欲と自信をもって活動できるようにするためにには、児童が思いや願いを生かして学習する中で気付いた取組のよさや工夫を、友達や教師などから認められたと感じることが大切である。活動を振り返ったとき、できるようになった、がんばれるようになったと感じることが大切である。

そこで、「出会い」過程では、対象への様々な気付きを「見つけたよカード」に表現し、「気付きマップ①」にまとめたり比べたりすることを通して、活動してよかったです、興味・関心をもったと感じられる伝え合う活動を行う。

「かかわり合う」過程では、対象に働きかけたり身近な人々と交流したりする中で気付いた取組のよさや工夫と、それに対する意見や感想などのメッセージを「気付きマップ②③」を通して交換し、自分のよさを感じられる伝え合う活動を行う。

さらに「振り返る」過程では、友達と一緒に活動できた楽しさ、遊びを工夫した面白さ、教え合えた嬉しさなどへの気付きを「気付きマップ①～③」を通して思い出し、できるようになったことや、がんばれるようになったことなど自分の成長を感じられる振り返る活動を行う。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対 象：南牧村立南牧小学校第1学年 児童数8名 期 間：平成20年10月9日～11月7日 時 間：14時間	単元名：すいすいさわやか きもちがいいね 授業者：1年担任 今井絵里沙 長期研修員 加藤 靖和
-------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------

(2) 検証計画

検証場面	検 証 の 観 点	検 証 の 方 法
出会う過程	自分の興味・関心に気付くのに、秋への気付きをまとめていたり比べたりした「気付きマップ①」を活用し、活動してよかったことを伝え合ったことは有効であったか。	○活動中のつぶやきや発言、様子 ○伝え合う活動での発表内容 ○「見つけたよカード」に書かれた気付き
かかわり合う過程	自分のよさに気付くのに、「見つけたよカード」「すごいねカード」で気付きやメッセージを交換した「気付きマップ②」を活用し、取組のよさや工夫を伝え合ったことは有効であったか。	○活動中のつぶやきや発言、様子 ○「見つけたよカード」「すごいねカード」に書かれた気付き ○伝え合う活動での発表内容
振り返る過程	自分の成長に気付くのに、気付きや活動の道筋が表された「気付きマップ①～③」を活用し、できるようになったことやがんばれるようになったことなどを振り返ったことは有効であったか。	○活動中のつぶやきや発言、様子 ○「振り返りカード」に書かれた気付き

V 研究の展開

1 単元名 「すいすいさわやか きもちがいいね」（小単元…あきののやま、つくってあそぼう）

2 目標及び評価規準

目標	○身近な秋を見付けたり秋の自然を利用して遊びや遊びに使う物をつくったりして、季節の変化や自然物を使った遊びの面白さに気付き、自分たちの生活を工夫したりみんなで遊びを楽しんだりする。 ○それまで気付かなかった自分のよさに目を向け、以前より成長した自分に気付く。		
評価規準	小単元名	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現
	あきののはら	○進んで秋を見付けたり、体全体で秋を感じたりしようとしている。	○秋の自然を生かした遊びを工夫している。

3 実践の流れ

(1) 小単元名「あきののはら」(5時間) 【生活科の内容(5) 季節の変化と生活】

過程	時間	主な学習活動と気付きの流れ	気付きマップを活用した伝え合う活動や振り返る活動	評価項目 (方法)
出 会 う	2	春や夏との違いを見付けよう ○校庭や学校周辺の自然の様子で、春や夏と違っていることを見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・木の葉が赤くなってきたね。 •コスモスの花が咲いていたよ。 ・校庭の草に大きなバッタがいたよ。 •サツマイモのはっぱがいっぱいだよ。 	○「見つけたよカード」の使い方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 活動しながら、見付けたことや気付いたことなどを「見つけたよカード」に絵や文で表現する。 カードを紹介しながら、春や夏との違いを伝え合う。 </div>	○校庭や学校のまわりの自然の様子に関心をもち、進んで春や夏との違いを見付けている。【関・意・態】 ○行動観察 ○校庭や学校のまわりの自然の様子が秋になって変化していることに気付いている。【気付き】 ○行動観察・カード
	2	野山にかけ、秋を楽しもう ○いろいろな秋を見付けたり、秋の特徴を生かした遊びをしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・落ちていたクリを拾ったよ。 •木の実をいっぱい集めたよ。 ・くっつき草を先生の背中につけたよ。 •落ち葉でシャワー遊びをしたよ。 ○虫の鳴き声を聞き取ったりすみかを探したりするなど、虫探しをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・コオロギの鳴き声を聞いたよ。 •トンボがいっぱい飛んでいたよ。 ・神社にも大きなバッタがいたよ。 •網で虫をつかまえたよ。 ○秋を見付けたり秋と遊んだりして気付いたことをカードに表現したり、伝え合ったりする。	○活動の様子を写真に撮り、「気付きマップ①」に掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 活動しながら、気付いたことなどを「見つけたよカード」に絵や文で表現する。 カードを紹介しながら、見付けた秋や秋の自然と遊んだことを伝え合う。 </div>	○野山で秋を見付けたり秋の自然と遊んだりすることに関心をもち、秋の自然と進んでかわろうとしている。【関・意・態】 ○行動観察 ○秋の自然の特徴を生かして、遊びを工夫している。【思・表】 ○行動観察 ○秋の自然で楽しむことができることに気付いている。【気付き】 ○行動観察・カード

	<p>秋への気付きを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が感じた秋への気付きを発表する。 ○友達の発表を聞いて質問したり感想を伝えたりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「神社の近くにクリが落ちていました。いがの中に入っていました。…」「どうやってクリを取り出しましたか。」 ・「畑に大きなバッタがいました。手の上に乗せたらジャンプしました。…」「バッタを手に乗せられてすごいと思いました。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけたよカード」をまとめたり比べたりしながら「気付きマップ①」に貼り、気付きの数や種類の多さを実感する。 <p>活動してよかったですを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「気付きマップ①」を基に活動してよかったですを伝え合い、自分が興味・関心をもっていることに気付く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで見付けたから木の実がこんなにいっぱい探せたんだと思います。 ・○○君と一緒に遊んで、～が好きになりました。またやってみたいです。』 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の気付きや友達の発表を参考にして、木の葉や木の実を使ってやってみたいことを出し合う。 	<p>「見つけたよカード」を基に秋への気付きを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○質問に答えることで発表内容を補ったり気付きを再確認したりする。 <p>「見つけたよカード」をまとめたり比べたりしながら「気付きマップ①」に掲示し、気付いたことを伝え合う。</p> <p>「気付きマップ①」を基に、活動してよかったですを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達の気付きや発表などを参考にしながら次の活動を考える。 ○「気付きマップ①」を掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然物や遊びの中で、自分が興味や関心をもっていることがあることに気付いている。 <p>【気付き】 (行動観察・カード)</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 小単元名「つくってあそぼう」(9時間) 【生活科の内容(6) 自然や物を使った遊び】

過程	時間	主な学習活動と気付きの流れ	気付きマップを活用した伝え合う活動や振り返る活動	評価項目(方法)
かかわり合う	5	<p>おもちゃやかざりをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木の葉や木の実を使ってやってみたいことを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリごま・マラカス・木の実のおもちゃ・まつぼっくりけん玉 ・リースの飾り・やじろべえ・葉っぱの絵・葉っぱのペンダントなど ○遊びや遊びに使うものをつくるのに必要な材料を集めること。 ○自分の思いや願いを生かしながら、おもちゃや飾りを製作する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・リースをつくるのにドングリやまつぼっくりがあるといいな。校庭の赤い実も使おう。 ・木の実を使って動物園をつくろうかな。スキでみみずくもつくりたいな。 ・くつつき草での当てゲームをつかったよ。的の大きさを変えると面白いかな。 ・赤や黄色の葉っぱを使うと、動物のペンダントがつくれるよ。 </div> ○友達や教師からのメッセージを読み、作品のよさや取組の工夫に気付く。 ○常時掲示している「気付きマップ②」を見て、いろいろな気付きやよさがあることを知る。 	<p>○「気付きマップ②」を常時掲示する。</p> <p>○「見つけたよカード」を表現し、「気付きマップ②」に掲示して伝え合う。</p> <p>○「すごいねカード」の使い方を知る。</p> <p>○活動の様子を写真に撮り、「気付きマップ②」に掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○木の葉や木の実を使った製作活動に興味をもち、自分のつくりたい物を進んでつくったり、製作や遊びを楽しんだりしている。【関・意・態】 (行動観察) ○秋の自然物の特徴を生かして遊びを工夫している。 【思・表】 (行動観察・カード)
	1	<p>おもちゃやかざりを紹介し合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品を見せながら、作品のよさや取組の工夫などを発表する。 ○友達の発表を聞いて質問したり感想を伝えたりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくはマラカスをつくりました。マラカスは全部音が違います。…」「マラカスの中には何が入っているんですか。」 ・「わたしは木の実でだるまさんをつくりました。工夫したところは…」「だるまさんの顔がクルクル回ってすごいと思いました。」 </div> ○得意になったことや工夫できたことなど、自分のよさに気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくにはキリでドングリに穴をあけるのが得意になりました。 ・楽器をいっぱいいくれられたのがいいところです。楽器が好きになりました。 	<p>「気付きマップ②」に掲示されている作品への気付き、友達や教師からのメッセージを基に、作品のよさや工夫を伝え合う。</p> <p>「気付きマップ②」や伝え合う活動を基に、得意になったことや工夫したことなど自分のよさを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○得意としていることや工夫していることに気付いている。 【気付き】 (行動観察・カード)
	2	<p>みんなで遊んだりつくったりしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達がつくりたおもちゃで一緒に遊ぶ。 ○友達からつくり方を教えてもらい、一緒にやってくる。 ○さらによってみたいことを考え、新たにおもちゃや飾りを製作する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくもリースをつくりたいな。ドングリやまつぼっくりがどこにあるか教えてもらおう。 ・○○くんのゲームが難しかったよ。でも、ぼくは的に3回当たったよ。ぼくもつくれてみようかな。 </div>	<p>○「気付きマップ②」や友達の作品を参考にして、遊びたいことやさらにつくれたいことを考える。</p> <p>○「気付きマップ③」を常時掲示する。</p> <p>○活動の様子を写真に撮り、「気付きマップ②」に掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のよさや友達のよさを見付けようとしている。 【関・意・態】 (行動観察・カード) ○友達と一緒に遊んだりつくれたりすると楽しいことに気付いている。 【気付き】 (行動観察・カード)
振り返る	1	<p>気付きや活動を振り返り、成長した自分を見付けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「気付きマップ①～③」を手掛かりに、出会いの活動でみんなと様々な秋に気付いた自分、働きかける活動で製作に没頭し遊びを工夫できた自分、交流活動で友達と楽しく遊んだり教え合ったりできた自分を振り返る。 ○「できるようになった自分」「がんばれるようになった自分」などの観点で自分の成長を見付ける。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのまとめ当てゲームは、大人気でした。お客様が喜んでくれてとても嬉しかったです。… ・わたしは、…ができるようになりました。うちでもペンダントをつくり、お母さんにあげたら喜ぶと思いました。… </div> 	<p>○「気付きマップ①～③」を基に、これまでの気付きや活動を思い出し、「できるようになったこと」や「がんばれるようになったこと」などを見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○できるようになったことやがんばれるようになったことなどに気付いている。 【気付き】 (行動観察・カード)

VI 結果と考察

1 結果

(1) 秋を見付けたり秋と遊んだりする中で、興味・関心をもっていることに気付く。

① 春や夏との違いを見付ける。

はじめに、学校や学校の周りで、木や草花や虫などの様子が春や夏と違っていることを見付けた。児童は「畑の隅の木の下にコオロギがいること」「畑にコスモスが咲いていて、投げると回りながら落ちること」「地面に落ちている葉っぱの表と裏で色が違うこと」「庭の木のオレンジ色の花からいい匂いがしていること」などに気付き、「見つけたよカード」に記入した。

途中、「見つけたよカード」を基に、気付いたことを伝え合った。

A児は「はっぱ」「きんもくせい」「つる」を記した3枚のカードから「つる」を選び、「金網につるが巻き付いていること」を発表した。B児は「イネ」「ようちゅう」「きんもくせい」「つる」「たまご」「み」「あかいみ」を記した7枚のカードから「み」を選び、「赤い実があったこと」を発表した。(図3)



図3 A児、B児の「見つけたよカード」

気付いたことを伝え合った後は友達と一緒に活動する児童が増え、「みんなで濃い赤、薄い赤、紫の実を見付ける」「いろいろな花を集めて花屋さんごっこをする」など、友達の発表を確かめたり秋の自然物を使って遊んだりする様子が見られた。

② 野山で秋を見付けたり秋と遊んだりする。

次に、いろいろな秋を見付けたり秋と遊んだりするために、春に探検した野山に出かけた。野山では、「雑木林のつるでブランコをつくって遊ぶ」「木登りしたり木の実を集めたりする」「バッタやチョウを網で捕まえる」「くっつき草で戯いごっこをする」などの活動が行われた。

A児はつるを見付けてぶら下がったり、引き抜いて丸めたりして遊んだ。行く前に「つるで遊びたい」と思っていたことができて満足した様子だった。遊んだつるは教室まで持ち帰った。B児は友達と木の実を探したり虫を捕まえたりした。神社の近くでクリのいがを拾ったが取り出しができず、指でつまんで持っていたら、友達から「くつでやればいいんだよ。」と教えられ、初めて自分

でクリの実を取り出すことができたと喜んでいた。

「見つけたよカード」に、A児はつる遊びをしたことなどを、B児はクリ拾いをしたことなどを記入した。(図4)



図4 A児、B児の「見つけたよカード」

③ 活動してよかったことを伝え合い、興味・関心をもっていることに気付く。

「見つけたよカード」を基に、見付けた秋や秋と遊んでよかったことを伝え合った。

A児はつる遊びをしたことを発表した。そして、友達の質問に答え、「つるが太かったこと」「けっこう長かったこと」「遊びが楽しかったこと」などを説明した。B児は不思議の実で遊んだことを発表した。そして、友達の質問に答え、「不思議の実が細長く丸い形をしていたこと」「小さく2cmくらいだったこと」「木についていたこと」「意外と青かったこと」などを説明した。

児童の発表は「～をしました。」「～を見付けました。」など簡単なものだったが、友達から「どうやってつるでブランコをつくったんですか。」「景色はよく見えましたか。」「不思議の実ってどんな実なんですか。」「森の中のどこにありましたか。」などの質問があり、それらに答えることで発表内容を補い、気付きを再確認することができた。

児童の発表から、気付きの種類を「つる」「あそび」「きのこ」「むし」「きのみ」「くさ・はな」にまとめた。そして、



友達の気付きと比べながら「見つけたよカード」を「気付きマップ①」に貼っていった。(図5) その際、児童から「先生、

実がこんなにあります。」「わたしのカード全部木の実です。」「ぼく、卵見付けたよ。」「木登りで遊んだよ。」「ちょうどよ捕まえた遊びかな。」などの発言があった。また、56枚のカードが全部まとめられたのを見て、「先生、またつるで遊びたいです。」「木の実が一番多いんだね。」「Bちゃんがいっぱい書いてくれたんだよ。」「ぼく、こんなに貼れました。」などの発言があった。

最後に、「気付きマップ①」(図6)を見ながら、活動してよかったですことを伝え合った。

A児は「みんなでつる遊びをしたのがよかったです。」、B児は「〇〇くんと実を見付けて、〇〇くんと二人のものにしました。」と、友達と一緒に遊んだり見付けたりしたことを発表した。



図6 「気付きマップ①」

(2) 遊びや遊びに使うものを工夫してつくる中で、自分のよさに気付く。

① 木の葉や木の実を生かした遊びを考えたり、おもちゃや飾りをつくったりする。

児童は自分の思いや願いを生かしながら、木の葉や木の実を使って「まつぼっくりのけん玉」「木の葉や木の実のサラダ」「金メダルのペンダント」「木の実落としゲーム」「野球ゲーム」「木の実のだるまさん」などを工夫してつくった。

A児はまず、紙コップの中に木の実を入れてマラカスをつくり、外側を木の葉で飾った。つくりながら木の実の種類によって音が違うことに気付き、何種類か製作した。次に、クヌギと棒でゴルフクラブがつくれることに気付き、ゴルフゲームを製作した。そのうち、友達がつるを使ったおもちゃをつくっているのを知り、自分も採ってきたつるを加工して、バトン、サッカーゲームを応援する旗、弓矢などをつくった。



図7 A児の作品

(図7) B児は紙コップにいろいろな木の実を集めて絵の具で飾る木の実ジュースをつくり、キリで木の実に穴をあけてやじろべえやだんごなどをつくったりした。その後、友達が木の実で野球ゲームをつくっているのを見て、サッカーゲーム



図8 B児のサッカーゲーム

をつくることを思い付いた。木の実を選手に見立て、二チームの選手の配置をわざと変えたり、選手以外の障害物を加えたりして、難しさに差を付ける工夫をした。(図8) つくりながら、箱を二人で動かしながら遊ぶと面白いことにも気付いた。

このような活動をする中、児童は「見つけたよカード」に気付いたことや工夫したこと書き、「気付きマップ②」で友達に知らせた。友達はそれを見て、「すごいねカード」にメッセージを書いて送った。(図9)

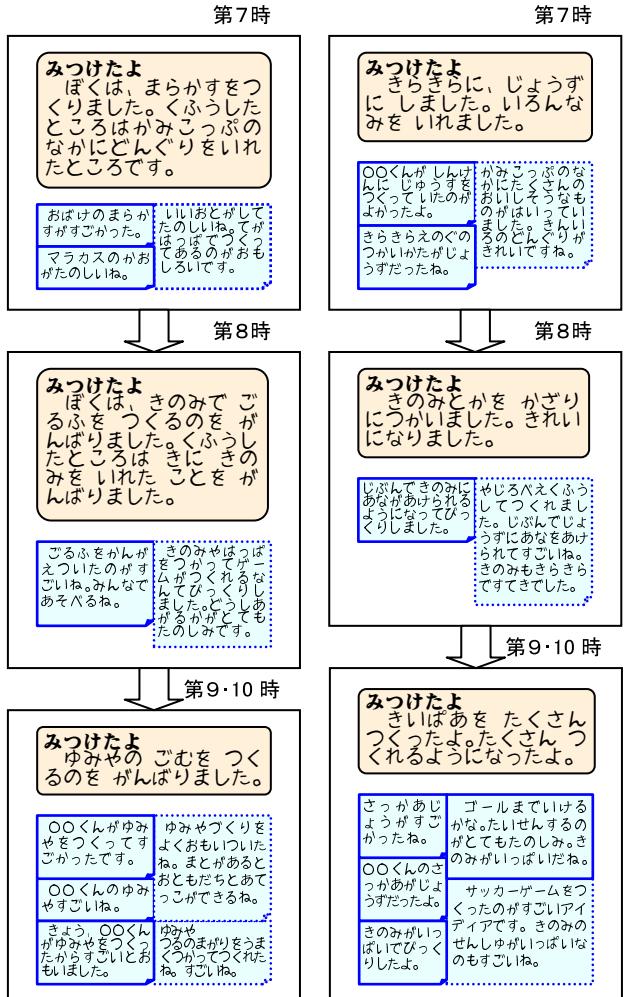


図9 A児(左)、B児(右)の「見つけたよカード」と、友達(実線)

や教師(点線)からの「すごいねカード」

A児はマラカス、ゴルフ、弓矢がつくれたことや工夫したことをカードに書き、「いいおとがしてたのしいね」「ごるふをかんがえついたのがすごいね」「きょう、〇〇くんがゆみやをつかったからすごいとおもいました」などのメッセージをもらつた。A児の気付きはその後、友達の楽器づくり、野球ゲームやサッカーゲームづくり、弓矢づくりの参考となつた。B児は木の実を装飾したことやサッカーゲームで工夫したことカードに書いた。サッカーゲームについて、「さつかあじようがすご

かったね」「たいせんするのがとてもたのしみ」「サッカーゲームをつくったのがすごいアイディア」などのメッセージをもらい、喜んでいた。

② 作品のよさや工夫を伝え合い、自分のよさに気付く。

はじめに、作品や「気付きマップ②」（図 10）を基に、友達に知らせたい、作品のよさや工夫を考えた。そして、「何をつくったか」「どう使ったり遊んだりするか」「工夫したところはどこか」などを伝え合った。



図 10 「気付きマップ②」

A児はつるとつるを組み合わせて遊ぶものをつくったことや、その遊び方を発表した。そして、友達の質問に答えて、「持ちやすい形にしたこと」「テープを使ってくっつけたこと」などを説明した。B児はサッカーゲームをつくり、遊び方や木の実の配置を工夫したことを発表した。そして、友達の質問に答えて、「いろいろな実を使ったこと」「簡単に点が入らないようにしたこと」などを説明した。

その後、もう一度「気付きマップ②」を見て、得意になったことや工夫できるようになったことなど、自分のよさを考えた。

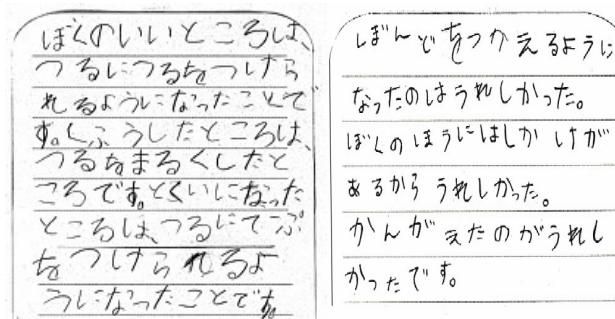


図 11 A児(左)、B児(右)が気付いた「自分のよさ」

A児は校庭での活動以来、ずっとつるを使って遊びを考えたり遊びに使うものを作ったりしてきた。そして、そのような活動の中でできるよう

になったことを自分のよさとして発表した。B児は「しあわせをつくったこと」「アイディアがいいこと」「みんながすごいと書いてくれたこと」などを思い出し、「よく考えて、仕掛けをつくれたこと」を自分のよさとして発表した。（図 11）

(3) 友達とのかかわりを深めたり、活動の道筋を振り返ったりする中で、成長した自分に気付く。

① 友達のつくったおもちゃで遊んだり、友達とつくり方を教え合ったりする。

「木の実落としゲームをつくって競争する」「まつぼっくりのけん玉で一緒に遊ぶ」「野球ゲームやサッカーゲームで対戦する」「つくり方を教えてもらいながら弓矢をつくる」などの活動が行われた。

A児は弓矢をつくって遊びたいという友達に弓のつくり方を教えた。A児はつるを使ったおもちゃを考えたり加工したりできることを自分のよさと捉えており、友達に教えることでそのよさを実感することができた。B児は自分がつくったサッカーゲームをやりに友達が来てくれたことを喜んだ。この友達は、遊んでいるうちにサッカーゲームが欲しくなり、B児につくり方を教わることになった。B児にとってそれが自信となり、サッカ一場の説明から選手の配置、難しくするコツなどを細かく教えていた。

交流活動の終わりに、できるようになったことや友達にしてあげられたことなどを「できたよカード」に、友達へのお礼を「ありがとうカード」に書き、「気付きマップ③」に貼った。（図 12）

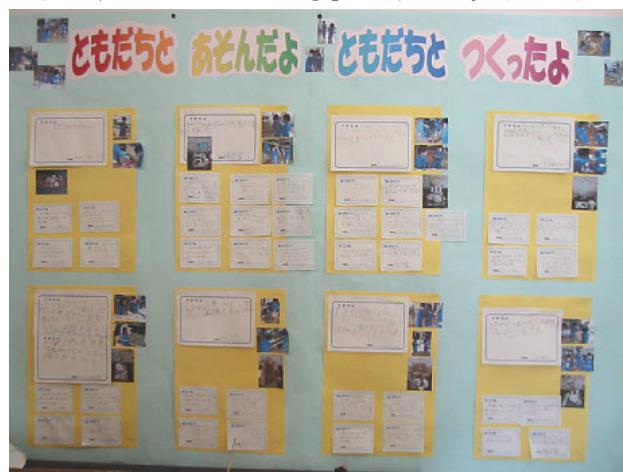


図 12 「気付きマップ③」

B児は「できたよカード」に「○○くんにさつかあをおしえられたのはよかったです」と、ゲームのつくり方を教えられたことを書き、友達から「さつかあをおしえてありがとうございます」「たのしくあそべました。またやらせてね」などのお礼のメッセージをもらった。

② 気付きや活動の道筋を振り返り、成長した自分を見付ける。

「気付きマップ①～③」を教室前面に掲示した。そして、「気付きマップ①」から「花で遊んだり蝶を探したりしたのがよかったです」「みんなが仲よくしてくれて嬉しかった」など活動する楽しさへの気付きがあったことを、「気付きマップ②」から「つるを丸くした」「得意になったことは楽器を全部できることで、楽器が好きになりました」「ぼくのほうには仕掛けがあるから嬉しかった」など遊ぶ楽しさや遊びを工夫する楽しさへの気付きがあったことを、「気付きマップ③」から「木の実ゲームを教えられました」「チャンピオンになりました」「先生が喜んだよ」など友達や先生とかかわって遊んだり教え合ったりする楽しさへの気付きがあったことを振り返った。

その後、一人一人が時間をかけて「気付きマップ①～③」をじっくり見直し、自分の気付きや活動を再確認した。(図13) そして、できるようになうことやがんばれるようになったことなどを見付け、振り返りカードに書いた。(図14)



図13 「気付きマップ①～③」を見て自分の成長を見付ける

A児
みんなにつるの弓矢を教えてもらったよ
あしもられるようにがったよ。ゆみやでたか
いができそうだね。
○○くんとゆみやち
ばしてたたかいでさ
とうです。

B児
みんなのいちきがんばったことでも
○○くんにさかあとおしゃらえて
よからでなきりでまなをうけらひよがん
ばとひできめくら、ア「強めういな
りました。○○くんとさかでまそべ
よがたです。

図14 A児(左)、B児(右)が見付けた「成長した自分」

A児は「みんなにつるの弓矢を教えてもらえたよ」とできるようになった自分に気付き、「弓矢で戦いができるようだね…」と次の活動への意欲をもつことができた。B児は「キリで穴を開けられた」「ボンドを使えるようになった」と道具が使えるようになった自分、「キーパーの位置をがんばった」と工夫しててくれるようになった自分、「教えられてよかった」「遊べてよかった」と友達とかかわりをもてた自分に気付くことができた。

成長した自分を伝え合う活動では、他の児童も、「～が得意になりました」「～に教えられたのがお

もしろかったです」「友達にぼくのつくったものを教えるようになりました」「～をつくれるようになってよかったです」と思いました」など発表することができた。

2 考察

(1) 自分の興味・関心に気付くのに、「気付きマップ①」を活用した伝え合う活動が有効であったか。

「見つけたよカード」を基に気付きを伝え合うことで、児童は友達の発表を確かめたり見付けた自然物と一緒に遊んだりするなど、友達の活動に関心をもつようになった。また、友達からの質問に答えることで、発表内容を補い、自分の気付きを再確認することができた。

「見つけたよカード」を、いくつかの種類にまとめたり友達の気付きと比べたりしながら「気付きマップ①」に貼り、思ったことを伝え合うことで、「いろいろな種類の気付きがあること」「自分は気付かなかったけど、友達は気付いていたことがあること」「種類によって多い気付きと少ない気付きがあること」などに気付くことができた。

そして、「気付きマップ①」を見て、活動してよかったですを伝え合うことで、A児は「みんなでつる遊びをしたのがよかったです。」とつる遊びに興味をもったことに、B児は「○○くんと実を見付けて、○○くんと二人のものにしました。」と、木の実に興味をもったことに気付くことができた。その後の活動においても、A児はつるを、B児は木の実を使った遊びや製作にずっとこだわりをもち続けた。これらのことから、「自分の興味・関心に気付く」のに、気付きマップを活用した伝え合う活動は有効だったと考える。

(2) 自分のよさに気付くのに、「気付きマップ②」を活用した伝え合う活動が有効であったか。

児童は秋の自然物を使った製作をする中で、気付いたことや工夫したこと、「見つけたよカード」に書き、自分の活動を振り返るようになった。「もう書くこと考えているんだ。」「工夫したことはね、…。」などと言いながら書く児童もいて、取組のよさや工夫に目を向けることができた。そして、「見つけたよカード」を見た友達や教師から「すごいねカード」をもらうことで、自分の気付きが認められたと感じ、自信をもって製作を進めることができた。

また、「すごいねカード」を書くことで友達の活動に関心をもつようになり、友達の考えを自分の活動に取り入れて、不足しているところを補った

り発想を膨らませたりするようになった。「すごいねカード」をもらうと嬉しいことや書くと友達が喜ぶことにも気付き、一人で何枚も書く児童やカードが来なかつた児童に「今日は書くね。」とカードをわざわざ送る児童も出てきた。

そして、「気付きマップ②」を活用して作品のよさや工夫を伝え合い質問し合う中で、A児は材料を加工して遊びに使うものをつくるのが得意になった自分に気付くことができた。B児はアイディアがいいと友達から認められことで自信をもち、よく考えて工夫できた自分に気付くことができた。このよさは、その後の交流活動で、自分のところに教わりにきた友達におもちゃの遊び方やつくり方を教えることで生かすことができた。このことから、「自分のよさに気付く」のに、気付きマップを活用した伝え合う活動は有効だったと考える。

(3) 自分の成長に気付くのに、「気付きマップ①～

③」を活用した振り返る活動が有効であったか。

伝え合う活動で活用してきた「気付きマップ①～③」の「見つけたよカード」「友達からのメッセージ」「写真」などを見直すことで、活動する楽しさ、遊びを工夫する面白さ、友達と遊ぶ面白さや教え合う楽しさを思い出した。

A児は、校庭でつるを見付けてからずっとつるとかかわってきたこと、つるで弓矢がつくれることに気付いて友達や教師から「すごいね」「よく思い付いたね」のメッセージをもらったこと、交流活動で友達につくり方を教えることができたことを再確認した。そして、自分の成長を「できるようになったことや次の活動への意欲をもてたこと」として捉えることができた。B児は、友達の野球ゲームを参考にサッカーゲームを工夫してつくったこと、友達とそのサッカーゲームで遊んだこと、その友達に仕上がるまでずっとつくり方を教えたことを再確認した。そして、自分の成長を「道具が使えるようになったこと、工夫してつくれるようになったこと、友達とかかわりをもてたこと」として捉えることができた。このことから、「自分の成長に気付く」のに、「気付きマップ①～③」を活用した振り返る活動は有効だったと考える。

VII 研究のまとめ

1 成果

自発的に対象へ働きかけたことが、伝え合う活動を通して友達や教師から認められたことで、児

童は自分のよさに気付き、自分の活動に自信をもつことができた。そして、自分のよさを生かして活動したり、友達のよさに積極的に触れたりするなど、身近な人々とかかわる楽しさに気付くことができた。さらに、伝え合う活動に活用した「気付きマップ」が、振り返る活動で気付きや活動の道筋を思い出す具体的な手掛けとなり、自分の成長に気付くことができた。

このように、伝え合う活動や振り返る活動を通して自分の存在・よさ・成長に目を向けたことで、内容(8)以外の学習においても、働きかける対象への気付きとともに自分自身への気付きも深めることができた。

また、児童の気付きや活動の様子が常時掲示されていることで、教師が児童のよさや工夫を具体的に把握することができ、一人一人の児童理解が深まるとともに、ゆとりをもって児童と接することができるようになった。

2 課題

遊んだり製作したりする途中で気付きをカードに表現するのは、一年生には難しかった。そのため、記入することが嫌になったり何を書こうか迷ったりしないよう、書くための時間を確保とともに、他の教科においても書く活動を充実させる必要がある。

また、児童が気付いた自分のよさや成長は、すべて人や自然との具体的なかかわりを通して気付いたことだった。したがって、児童が自覚していない自分のよさや成長に気付くことができるようになるためには、人・社会・自然などとのかかわりを広げ、児童の具体的な活動や体験をより豊かにする必要がある。

さらに、意欲と自信をもって生活できるようにするためにには、他の単元や生活科以外の教科でもよさや成長に目が向けられる活動を取り入れ、自分自身への気付きを深めていく必要がある。

〈参考文献〉

- ・『小学校学習指導要領解説生活編』文部省(1997)
- ・『全国的かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校事業 分析の経過(小学校生活)』国立教育政策研究所教育課程研究センター(2005)
- ・『子どもたちの「やったあ!」が聞こえる』剣野小学校の生活科研究紀要(2006) <http://kedu.kenet.ed.jp/kenkyoso/kenkyu/2006/kenkyu2006.html>
- ・木村 吉彦 著『気付きの質を高める生活科 12ヶ月』学校図書(2008) <http://www.gakuto.co.jp/sidouyouryo/pdf/seikatsu1.pdf>
- ・『初等教育資料』3月号、6月号 文部科学省(2008)
- ・『小学校学習指導要領解説生活編』文部科学省(2008)